

交換留学報告書

2023 年度前期

スペイン・バリャドリッド大学

静岡県立大学

国際関係学部国際言語文化学科

ヨーロッパ文化専攻 4 年

(1)総合的な感想

私はスペイン留学で多くの楽しい経験と辛い経験をし、支えてくれる人たちのありがたみを感じながら、自分と向き合うことができた。特に、私が得た一番の知見は自立とは人を頼ることだということだ。私は留学をする目的として、スペイン語の上達やヨーロッパ文化に触れることのほかに、自分ひとりで留学をやり遂げて自立した人間になることがあった。私は実家を出た経験や海外経験がなかったため、一人で海外に行けば、なにか自分を変えることができるのではと漠然に思っていた。しかし知らない土地で自分の力だけで生きていくのは難しく、自分が成長していける環境をつくるにはやはり人とかかわることが大事である。トラブルにあってしまったときは、無知な自分の頭を信用するより、その土地や知識に精通した人を頼ったほうがより良い解決策を生み出すことができるし、私自身もその人に恩返しできるようになりたい！と留学生活のモチベーションにもなる。それを踏まえて、私は海外に行くことが直接的に自分を変えることにつながるのではなく、海外に行って、どんなことを感じ、自分がどう行動していくのかで、留学の充実度が大きく変わると考える。

(2)派遣先大学について

私は2023年7月からバレンシアの語学学校へ、9月から2024年2月初旬にかけてスペインのバリャドリッド大学セゴビアキャンパスへ交換留学をした。セゴビアはマドリードの北西に位置し、バスで約1時間の距離にあるため、週末はマドリードで買い物や観光をすることもあった。セゴビアは歴史的建造物に富んでおり、有名な水道橋はじめカテドラルやアルカサル城など息をのむような景色を飽きることなく楽しめた。個人的には気候は日本と変わらないように感じたが、湿度がなく乾燥しているため喉を傷めることも時折あった。しかし私が派遣されていた年は、例年に比べて温暖で、毎年降雪があるのにも関わらず、雪は見られなかった。雪が積もったアルカサル城を見ることをひそかに楽しみにしていたため少し残念だった。

キャンパスはとても綺麗で、特に箱が浮いているようなデザインをしている図書館は目を見張るものがあった。食堂はないが、校内の自動販売機で軽食を買ったり、大学の目の前にあるカフェテリアで軽食をとる生徒も多い。カフェテリアはコーヒーを一杯頼むとタパスと呼ばれる一口サイズの軽食もついてくる。

授業は、私は「Geografia Turistica（観光地理学）」「Recursos Culturales Turísticos（観光資源文化）」を履修した。

「Geografia Turistica」は木曜1限と金曜1限に開講された。内容は土地や標高、資源、気候を分析して、自然的要因と人為的要因の二つの観点からスペイン国内の観光にアプローチした。評価はミニテストとペアプレゼンテーションで私はモロッコ人の留学生とアンダルシアの地理的特徴と観光について発表した。校外実習としてバリャドリッドにあるワ

イン工場を見学し、高級赤ワインを試飲したのは非常に貴重な経験であった。

「Recursos Culturales Turísticos」は火曜 1 限と金曜 2 限に開講された。難易度はこちらのほうが上だと感じる。豊富な文化資源が残るギリシャやローマの建築などを歴史的観点から学ぶだけでなく、マドリードにあるプラド美術館に見学に行ったり、セゴビアの観光地を回りながら、生徒たちがプレゼンするなど、座学の授業だけでなく実際に現地に赴くことも多かった。評価方法は計 5 回のプレゼンテーションで、特に重い最終発表のテーマはダークツーリズムだった。生徒たちはそれぞれ 2~4 人のグループに分かれ、私たちは第二次世界大戦時にノルマンディー上陸のあったフランスのノルマンディー地方についてを取り上げた。

私が履修した授業はどちらもペアワークやグループワークが多く、必然的にクラスメイトとコミュニケーションをとる機会があった。授業後はカフェに行って談笑することも多かった。また私の理解が浅い部分は先生やクラスメイトが助けてくれて、乗り越えることができたので、本当に周りの人に恵まれていたと思う。

(3)生活面について

渡航前は海外保険に入ったり、語学学校の授業料を振り込んだりなどお金がかかる部分もあったが、滞在中は金銭面の不安はそこまでなかった。留学前にアルバイトで稼いだお金は貯蓄していたこと、そして JASSO の奨学金を毎月いただけていたことが大きかった。交換留学のメリットでもあるが、その分責任感をもって留学生生活を全うした。ほとんど全部クレジットカードでの支払いができるが、現金のみの店や、少額すぎるとカードを使用できない店もあったので念のため現金も持っていたほうが良い。また公共交通機関、特にセゴビアはバスを使用することが多いが、ローカル線 (LINECAR など) のものだと現金もしくは TOICA のようなチャージできるカードで対応していたが、カードのほうが安く乗れる。マドリード行きのバス (avanza) は窓口購入かオンライン購入ができるが窓口のほうが安く購入できる。連休の時期になるとバスは満席になってしまうので事前に買っていた。小さくは、やはり外食は高くつくため、基本的に自炊することが多かった。スーパーマーケットでまとめて買うこともあったが、野菜屋さんや果物屋さん、肉屋さんなど専門店のほうが安いのでそちらで買うこともあった。

また私は住居に関しては大きなトラブルに巻き込まれてしまったので、今後留学に行かれる方は同じ思いをしないように十分注意してほしいと思う。ビザ申請の際に、スペインでの滞在先を記載する必要があるため、住居を事前に探しておく必要がある。(語学学校に行く場合は語学学校が用意する寮の住所で構わない) 私はバレンシアに滞在中に住居を idealista やバリエドリード大学セゴビアキャンパスのインスタグラムのアカウント (@salseo_uva_segovia) で探しており、結局インスタグラムの DM で条件があったところが見つかり、8 月くらいにネット上契約し、1 か月分のデポジットを送金した。契約書は送

金のあとに送るといわれたが、何度催促しても引っ越しの日まで来ることはなかった。その後、バレンシアからセゴビアに移動した後も「シロアリ駆除がまだ終わっていないから」とかいうわけのわからない言い訳をされ、一週間ほどホテルに滞在したが、結局音信不通になったため、新しい家を契約することになり、お金も返ってくることはなかった。とても落ち込んだが、一つの教訓になったし、また多くの人が私のことを助けてくれて人の温かさを感じることができた。どうしようもないトラブルに巻き込まれたときは一人で抱え込まず周りに相談したり、頼ったりすることが、自分の成長や自立につながるのだと深く感じた。家を契約するときは可能なら実際に足を運んで内見に行くこと、またどれだけお金を先に振り込めと催促されても、絶対に先に契約書をもらうこと（契約書をもらえないなら詐欺）を徹底すれば私のような詐欺にあう心配はないだろうと思う。

(4)その他（ボランティア・旅行等）

冒頭で、どのようなことを感じ、どう行動するのかで留学の充実度が変わると述べたが、例えば私はバリャドリッド大学へ交換留学をする前に、バレンシアという都市で 2023 年 7 月から 2 か月間語学学校に通っていた。語学学校には世界中から多くの人がスペイン語を学びにきていて、いろんな人種の人たちと友達になることができた。同じクラスの人たちと市街地をお散歩したり、ビーチに遊びに行ったりして充実した時間を過ごすことができた。しかしながら語学学校には、スペイン語をネイティブで扱う人は先生以外にいなかったため、生きたスペイン語に触れることは難しかった。私は現地のスペイン人とかかわれる機会がほしかったため、Instagram で **intercambio**（インテルカンビオ）と呼ばれる言語交換会が開催されていることを知り、参加した。そこには日本語を学びたいスペイン人とスペイン語を学びたい日本人が 10~30 名ほど集っていて、スペイン語や日本語で会話をしていた。インテルカンビオにいるスペイン人は日本文化が好きな人も多く、アニメやマンガ、食の話でもりあがった。私はインテルカンビオで趣味や誕生日が一緒のとても気の合う友人に知り合うことができて今も連絡を取り合っている。このように、私が、現地のスペイン人と知り合う機会がないことを課題に感じ、実際にインテルカンビオへいくという行動に移したことが、人と出会うきっかけになり、より私の留学生生活を充実させたのだと感じる。

他にも、大学のメンターやエラスムス（ヨーロッパの留学生）たちと月に一度程度集まってカフェやプチ旅行をしたり、伝統的なお祭りやフィエスタに行ったりして、大都市ではないセゴビアならではのローカル感を楽しむことができた。また懇意にさせていただいた留学生担当教授から教えていただいたセゴビアにある公立の語学学校に通い、ほかのコミュニティをつくったりした。私は国内や近郊へ旅行することが多かったが、ヨーロッパ圏内は簡単に旅行できる。スペイン留学中にしか出会えない人や景色、イベントがたくさんあるので、ぜひ行動して、ストレスにならない程度に楽しんでほしい。

スペイン・バリャドリッド大学

交換留学報告書

静岡県立大学 国際関係学部

国際言語文化学科 3年

アジア研究

2023 年 9 月から 2024 年の 2 月 7 日まで、大学の交換留学制度を利用してスペインのバリャドリード大学で約半年間勉強をした。バリャドリード大学はいくつかのキャンパスに分かれているが、私が派遣されていたキャンパスはカスティーリャ・イ・レオン州のセゴビアという比較的小さな町にあるキャンパスであった。学部は、社会科学・司法・コミュニケーション科学部で、その中の観光学科と会社経営学科の授業を履修していた。本報告書では、主に派遣大学先と日常生活について述べていく。

まず、大学とそこでの授業についてである。前述したように、私は 2 つの学科の授業を履修しており、1 つは観光学科の「観光社会学 (SOCIOLOGÍA DEL TURISMO)」であり、もう 1 つは会社経営学科の「社会学 (SOCIOLOGÍA)」である。どちらも社会学の授業であるのは、私が所属しているゼミが社会学系のゼミであり、交換留学の利点の 1 つでもある単位交換をするためである。観光社会学の授業は、そもそも観光学科の生徒数が少ないこともあり、私を含めて 7 人という少人数の授業であった。授業形式は、主に学内ポータルサイトにアップされるパワーポイントの資料やレジュメに沿っての講義形式であった。映画を見て、その映画の内容を講義の内容と関連させて分析したり、観光に関する広告や CM を取り上げ分析するという実践的なことも行ったりもした。

もう 1 つの社会学の授業では、社会学の基本的な枠組みや研究の仕方についての講義、また、新聞記事や文献の 1 部を取り上げ、現代社会で起きていることやその問題点等についての理解を深め、分析を行うといった内容であった。新聞で取り上げられる地域はスペインが主であったが、アメリカや中国などの大国やスペイン語圏である南米、さらに日本の話題が取り扱われた時もあり、スペインから見た日本を垣間見ることが出来た。どちらの授業も比重に多少の違いはあるが、評価は課題と最終試験の 2 つであった。観光社会学の課題は、個人作業で、7 つ程ある中から 4 つ選んで提出するものであった。社会学の方は、ペア（人によってはグループ）ワークであり、セゴビアの持続可能な消費についての分析及び提案をするというものであった。最終試験は、どちらもスペイン語での記述式であった。私はまだまだ自分の語彙力、そして読解力が完璧ではないことが分かっていた為、事前に先生に申し出て、試験中に電子辞書の使用を許可して頂いた。普段の授業もちろんスペイン語であり、ネイティブである先生方の話すスピードは私にとってとても早く、聞き取るのに苦労したが、「分からないことがあったら質問してね」や「最近授業はどう？」などと、とても気遣って下さりありがたかった。



(セゴビアキャンパス)



(セゴビアの街並み)

次に日常生活について述べていく。まず、住居についてだが、スペインでは「ピソ」という集合住宅のような場所でのシェアルームが多い。実際私も1人のスペイン人の女の子とのシェアルームであった。私のピソは、トイレとシャワーが2つあり、個別であったため、好きな時に利用でき便利であった。同居人も同じ大学に通っており、家を出る時間が同じときは一緒に登校したり、ご飯を食べたりすることもあった。また、同居人の好きなドラマを教えてもらったり、私はアニメが好きなので、一緒にアニメを観たりもした。家の近くには、スーパーもあり、大体の日用品はそこで購入していた。スペインのお店は、日曜日は基本的に閉まっているので、その点が日本と違い多少の不便さはあったものの、前日までに買い物は済ませ、お店が閉まっている日は、部屋の掃除をしたり、水道橋やマヨール広場がある中心地の方まで運動がてら散歩に行ったりして過ごした。セゴビアの水道橋は、とても大きく、いつ見ても圧巻であった。スペインの人々は、カフェやバルでお茶をしながらおしゃべりしていたり、電話をしながら歩いていたたり、また街中で話し込んでいる姿もよく見かけ、おしゃべりが好きという印象であった。日本のような忙しなさを感じる事があまりなく、穏やかに楽しい時間を過ごせたと思う。



(セゴビアの大聖堂)



(コロッケと huevos rotos)

留学中には何度か国外に旅行にも行った。大体の国が飛行機で約2〜3時間ほどで行けるため、国内旅行と同じくらい海外旅行が身近に感じるのではないかなと思う。12月のはじめ頃に南ドイツに行き、年末年始にロンドン、最終試験が終わった1月下旬にベネチアとプラハに行った。写真集で見て中学生の頃から行きたかった町にも行け、滞在先の hostel で出会った人達とおしゃべりをするのはとても楽しく、貴重な体験であった。電車に乗るときや、お店でご飯を注文するときなどに現地の人に助けってもらったことも多々あり、観光だけでなく、人々の優しさをたくさん感じた旅となった。

「大学で留学をする」ということが高校の時から目標であったため、その目標を達成できとても嬉しく思う。また、単位交換ができ、静岡県立大学に学費を納めていれば、派遣先の大学の授業料は免除され、私費留学に比べ費用を抑えられるという点が交換留学のメリットであると言えよう。選考で少しでも役立つように、普段の授業で出来るだけ良い単位を取って GPA を上げたり、1年生の頃から少しずつスペイン語検定を受けたりした。しかし、一番大事なのは、やはり動機や留学中に何がしたいかということであって、留学への強い思いがあれば、誰にでもチャンスはあると思う。私は静岡県立大学で勉強しているうちに途上国に興味が出てきたため、悩んだ末に専門コースはアジア研究を選んだが、ヨーロッパの言語や建築に興味があり、日本とは全く異なるヨーロッパの国で生活をし、自分の人生経験を積みたいという思いは残っていたので、スペインに留学することを決めた。卒業研究に役立てることは難しいかもしれないが、「留学」という経験をできたことは今後の人生において

役に立つと思う。

最後に、ご迷惑をたくさんおかけしたが、留学をサポートして下さった森先生や国際交流室の方々、派遣先のバリャドリード大学の関係者様、留学を後押ししてくれた家族に感謝申し上げます。